

Nazca・STELLARの導入により、検診車データの管理から院内の基幹システムとのデータ連携まで多様なニーズに対応

導入経緯

検診車のデータ連携と作業効率化を目指し新システムへ移行

公益財団法人福岡労働衛生研究所は、西日本有数の労働衛生機関であり、人間ドックに必要な胃部の直接撮影装置を備えた総合検診車9台を始め、24台の胃部、胸部撮影車、婦人科検診車、骨粗鬆症検診車等を保有しております。それぞれの検診車のデータのデジタル化はされていましたが、検診車搭載のシステムが新旧混在しており、また、検診車の種類によってもデータが多様多様に存在していました。そのため、形式の異なる検診車データをそれぞれの専用端末・ソフトにてデータ転送する作業を行っていました。

さらに基幹システムと PACS システム、検診車のデータ連携が出来ておらず、検診車データの属性情報をマッチングする作業が発生していました。同様に、院内 DR 装置についても基幹システムとの連携が出来ておらず、属性情報を手入力している状況でした。

当院はこれらの作業を軽減し、作業効率をあげたいと考え、加えてファイルサーバシステムの老朽化もあり、現行システムから新システムへと移行することを検討しました。

Nazca・STELLAR はカスタマイズにより多様なニーズに対応可能な点が決め手

当院としては、新システム移行に伴い5つの要件がありました。
① 形式の異なるすべての検診車データ（メディア）が1つの検像端末によりデータ転送・処理が出来ること。
② 手作業で行っていた属性情報のマッチングを、自動化するために、基幹システムとの連携が出来ること。
③ 多量の検診車データ（画像ファイル）の管理が簡便にできること。
④ 読影現場での画像ファイルの次画像送りがスムーズであること。
⑤ 院内の撮影装置が MWM サーバを導入したことにより、基幹システムとのデータ連携が可能になり、すべて手入力していた属性情報の自動化が出来ること。

以上5つの要件をクリアする為の提案を各社より頂き、ヒアリングさせていただきました。その中でも、Nazca (PACS)、STELLAR (診療データ統合管理システム) はソフトのカスタマイズにより多様なニーズに対応可能である点が選定の決め手となりました。



放射線部の皆さん

導入効果

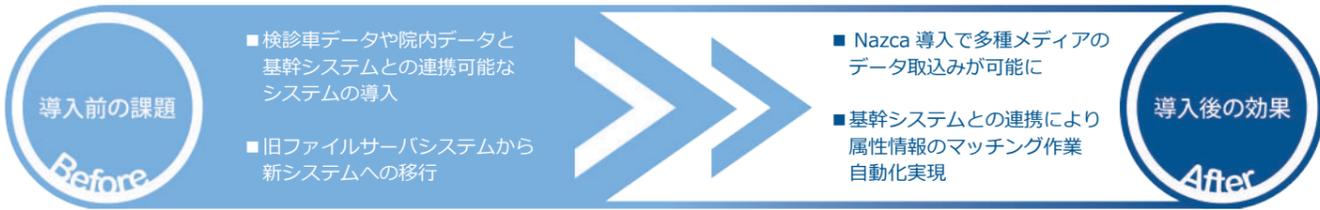
Nazcaを導入したことで基幹システムとの連携が可能になり作業効率化を促進

Nazca (PACS) を導入したことにより、検像端末へ多種メディアのデータ取り込みが可能となりました。加えて検像端末の増設も行い、より一層データ転送作業現場の効率化が図れ、混雑が解消されました。また、基幹システムとの連携ができた為、手動で作業をしていた属性情報のマッチング作業の自動化が実現し大幅な作業削減となりました。読影現場では、次画像送りはもちろん、過去画像の参照も簡便で画像検索も容易であることから、使いやすさと好評です。さらに、属性情報をすべて手入力していた院内の撮影装置についても MWM サーバを導入したことにより、基幹システムとの連携を行い、自動化が可能になり、作業効率アップを図れました。

今後の課題としては、受診票（判定票）が紙で残存する為、判定結果入力については現行のままとなっており、これについても改善を考えています。



福岡労働衛生研究所・検診バス



福岡労働衛生研究所：システム導入時期 / May 2011



公益財団法人福岡労働衛生研究所は、1961年設立当初から「労働者の健康の管理・保持増進及び地域住民の保健予防、更には作業環境測定等により、産業の発展と住民の健康増進に寄与すること」を目的として保健サービス事業を推進してまいりました。今後ともお客様の満足の得られる事業を推進するためには、品質保証が不可欠であり、ここに品質方針を定めます。

- 品質保証体制の確立
 - データに基づいた精度管理と、計画的な設備保全、及び従業員教育により、安定した業務遂行を行い、高品質のサービスを継続的にお客様へ供給する。
 - お客様のニーズを的確にとらえ、これを従業員の末端まで浸透させ、お客様が満足するサービスを作り上げる。
- お客様満足の向上
 - 品質に関する新しい技術・情報を収集し、常に他機関より進んだ技術、ノウハウを蓄積して、JIS Q9001 に適合する仕組みを構築し、継続的に改善していく。
 - お客様に新しい提案・企画を積極的にを行い、お客様より信頼される組織・運用を目指す。

所在地：福岡県福岡市南区那の川 1-11-27
診療科：巡回健診・施設健診・臨床検査・総合健診

今後の方針

PACS を導入し、基幹システムとの連携ができたことにより、手動対応していた作業の削減ができ作業効率が上がりました。撮影装置に関しては全体の半数程度はアナログ装置が存在しているのが現状で、画像データとフィルムが混在している状況です。今後は、アナログ装置の切り替えを行っていき、オールデジタル化することを検討しています。並行して、RIS を導入し巡回健診現場・読影現場・結果管理においてペーパーレス化を計りたいと考えています。

今後の期待・要望

今後、より一層の自動化と、健診施設としての運用にマッチしたシステムの進化を図りたく、それに合わせた機能のご提供、ご支援を期待したいです。

システム構成図

